



つぶらな瞳が印象的なグヴィアズダ

小島友実の あの馬の STORY



グヴィアズダ

矢野英一厩舎に所属するグヴィアズダのお母さんはグコートファーム所属馬として計4勝をマークした「コートファーム」。筋毛の馬体を躍動させ、短距離を中心に戦う歳になるまで活躍したいとの馬は、私の記憶の中にも色濃く残っています。かつて出資していた馬の子供をまた愛馬会員として応援する。これも一口トイの楽しみ方ですが、グヴィアズダに思い入れのある会員さんも多うのではないでしょうか。

グヴィアズダはショコルンターラーの仔。矢野英一調教師が初めてこの馬を見たのは一歳の夏頃だそう。その時の印象を振り返ります。

「牡馬にとっては体が小さじ印象でした。ガバラッとした馬が良くて、特に悪い所のない馬でした。成長した感じ変わらぬかな」という印象でしたね。

2歳の前半頃までは琢筋に疲れが出やすかった事もあり、牧場で十分に配慮されながら、じっくりと育成されていったケイアズダ。昨年10月中旬に美浦トレセンへ入厩し、ゲート試験に合格。その後、短期放牧を挟んで、11月末に再入厩しました。

入厩当初は、動きに物足りない所があったのですが、徐々に動きが良化。デビュー戦の舞台は選ばれたのは昨年12月の中山ダート1200メートルでした。

「僕たちの馬の調教に乗って感じました。これはダートの1200メートルだな」と矢野調教師がこのように話すのを聞くと、現段階のグヴィアズダは父の「

ダの母さんとはグコートファーム所属馬として計4勝をマークした「コートファーム」。筋毛の馬体を躍動させ、短距離を中心に戦う歳になるまで活躍したいとの馬は、私の記憶の中にも色濃く残っています。かつて出資していた馬の子供をまた愛馬会員として応援する。これも一口トイの楽しみ方ですが、グヴィアズダに思い入れのある会員さんも多うのではないでしょうか。

ワフオースより、母の「コートファーム」の特徴が出てくるかも知れませんね。初戦の手綱を取ったのは「デビューコース」前の調教でも騎乗していた丸山元騎手。矢野調教師は、「ゲートは出られると馬の動きは上手く流れに乗れ」レースをし、あとは上手く流れに乗れ」と語ります。馬は、1月13日の中山ダート1200メートル「ピター戦」。スタートして一完歩田はややこした感じでしたが、丸山騎手が押しつぶさうと4〜5番手を追走。4コーナーで外を回り直線に向き、追い出されながら着いて結果でした。

「最初、ソロウと出たかった」(中山ダート1200メートルのペース)と地元の芝スターはあまり得意ではないのでしたね。トトロは内へもたれてしまって、あれがなければ勝ついたかもしません。ただ、相手関係に恵まれた面があるほうで、レース内容は予想以上でした」

初戦後の昨年12月末にトレセンへ行き、グヴィアズダの様子を見できました。初戦前から担当する伊藤弘之厩務員に普段の様子を聞きました。

「少しカリカリする所もあるけど、パートクでは普通に歩けてるみたいで、レース行つた問題はありませんでした。馬房では大人しくて、扱いやさしい馬です。飼葉食も良いで、運動中などは少しリラックスした所があるものの、牡馬特有的な煩わしさはありません。顔つきも優しく、馬を扱ってかかる感覚はあまりないですね」

いよいよついでに馬が印象的でした。年が明けからも少しがたじ遇い切りを行い、矢野師も乗つて「背中の動きがカラッと変わった」と感じたというグヴィアズダは、1月13日の中山ダート1200メートルに出走しました。レースでは押して逃げ、逃げて送り出したところ、内田騎手は「スタートダッシュがつかない分、もう少しゆったり流れる東京ダート1300メートルも長いかもせん。デビューコースでは内へもたれたみたいで、ポジションを取つに行き、4コーナーを5番手で回り直線では伸びかけたものの馬にかわされてしまい、4着。騎乗した内田騎手は「スタートダッシュがつかない分、もう少しゆったり流れる東京ダート1300メートルも長いかもせん。デビューコースでは内へもたれたみたいですが、今日は問題ありませんでした」と語りました。

矢野調教師に課題や長所、そして今後の事などについて伺いました。「戦は相手を捌つてしまふんだ」という戦は相手を捌つてしまふんだ。初戦前から担当する伊藤弘之厩務員に普段の様子を聞きました。

「少しカリカリする所もあるけど、パートクでは普通に歩けてるみたいで、レース行つた問題はありませんでした。馬房では大人しくて、扱いやさしい馬です。飼葉食も良いで、運動中などは少しリラックスした所があるものの、牡馬特有的な煩わしさはありません。顔つきも優しく、馬を扱ってかかる感覚はあまりないですね」

「お聞いてグヴィアズダの表情を覗いてみると、確かに顔が牝馬みたいに可愛